

水口 剛さん

未来を創り出す 「Future Maker」に

高崎人

令和3年4月に水口剛さんが高崎経済大学学長に就任した。「優れた人材を育成し、大学と地域の発展、社会が抱える課題解決に貢献していきたい」と抱負を語る。

新型コロナウイルスの感染拡大によって高崎経済大学も大きな影響を受けた。昨年は入学式を中止し、令和2年度前期は全ての講義を遠隔方式で行うことになった。リアルタイム配信だけでなく、いつでも閲覧できるオンデマンド配信や、課題や資料をウェブで公開するなど工夫ができ、講義のあり方として大きな可能性を持っていると水口学長は感じたという。

「しかしながら、学生には大学のキャンパスに来て学生生活を送りたいという強い希望があります。大学の価値は、大学という場で学生や教官が同じ時間を共有することにあります。サークル・部活動は、実際に学生が集まらないと仲間づくりができません。高崎の地に学生が集まり、高崎で4年間暮らすことに価値があります。全国から集まった4千人を超える高崎経済大学の学生が、若々しい活力を高崎にもたらしています」と語る。令和3年度は、感染防止対策を徹底し、4月から対面授業を全面実施している。「感染症を防ぎながら大学のにぎわいを取り戻していきたい」という。

水口学長は、早くから環境課題の解決と経済発展を実現する社会をめざし、研究や提言を行ってきた第一人者でもある。

「2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて世界が本格的に動き出した。CO₂を出さない成長戦略へ転換し、新たな地域間競争の時代を迎える」と指摘する。全国で活躍する卒業生が高崎経済大学の力となっている。持続可能な社会を担う人材を育成し、未来を創り出す「Future Maker」となることが、高崎経済大学の使命と水口学長は考えている。



■水口 剛さん（みずぐち たけし）

1962年（昭和37）千葉県松戸市出身。筑波大学卒。民間企業を経て、1997年（平成9）高崎経済大学経済学部講師。2008年（平成20）から教授。2017年から副学長・理事。2021年（令和3）4月、高崎経済大学学長・副理事長。

研究分野は会計学、ESG投資など。SDGsと経済、投資について講演や執筆等続ける。環境経済・政策学会監事、環境省・グリーンボンドに関する検討会座長、ESG金融懇談会委員、金融庁・サステナブルファイナンス有識者会議座長など歴任。著書「責任ある投資—資金の流れで未来を変える」（岩波書店）で環境経済・政策学会論壇賞受賞（2014年）。他に「ESG投資—新しい資本主義のかたち」（日本経済新聞出版社）など多数。